

経営比較分析表（令和3年度決算）

京都府綾部市 綾部市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(代行制)	21	対象	ド透I未訓方	救臨へ
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
32,384	17,662	-	第2種該当	7:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

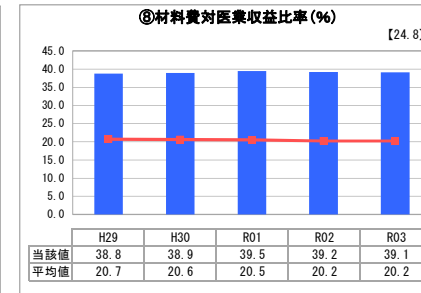
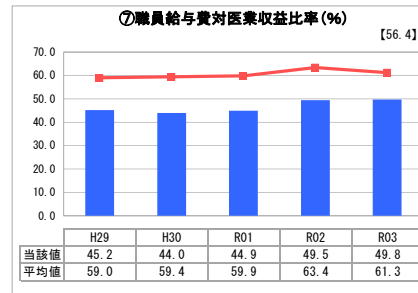
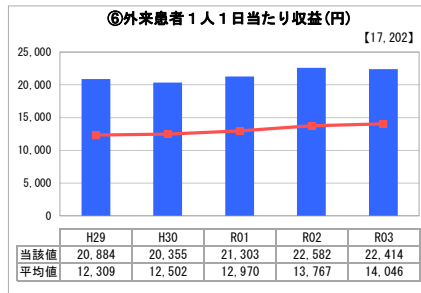
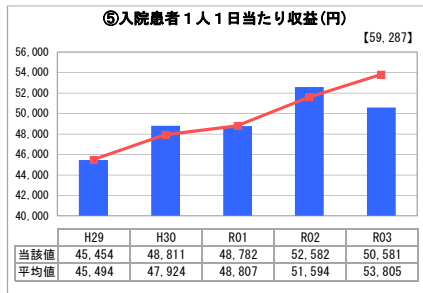
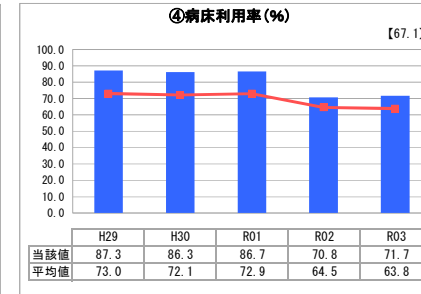
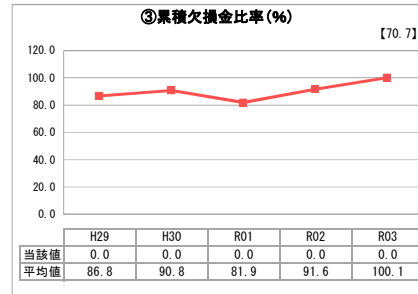
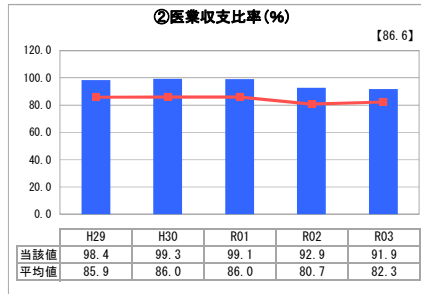
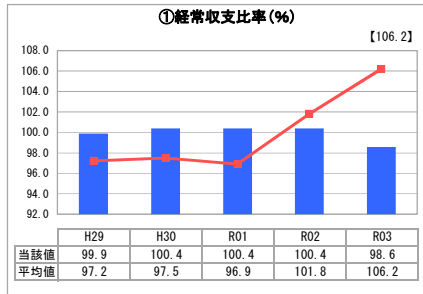
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
206	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	206
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
182	-	182

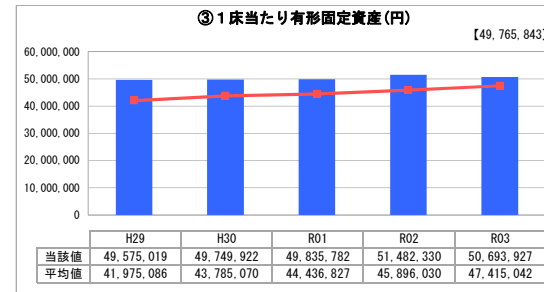
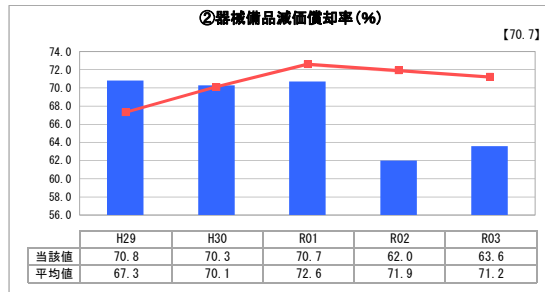
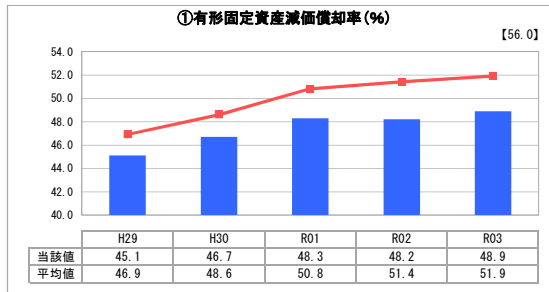
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	平成18
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

綾部市立病院は市内唯一の公立病院であり、急性期の地域中核病院としての役割を担っています。また、平成28年5月からは地域包括ケア病床を50床導入し、回復期・慢性期病床も望む地域ニーズに応える病院となっています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、前年度比で補助金が減少、一人あたりの診療単価の減少による総収益の減少、患者増による薬品費等の増加により、100%を下回り、単年度収支赤字となりました。
 ② 医療収支比率については、類似病院平均値より高い値となっており、効率的な医療活動が実施できています。
 ③ 病床利用率は、前年度と比べわずかに増加しましたが、新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響もあり、コロナ前の令和元年度以前の状況まで戻っていません。
 ④ 入院患者1人1日当たり収益では内科、小児科、泌尿器科の患者数は増加したものの外科や整形外科の患者数は減少したため、全身麻酔をする大がかりな手術件数の減少等により、診療単価の減少の影響を受け大きく減りました。
 ⑤ 外来患者1人1日当たり収益は類似病院平均値を上回り、高い収益率となっています。
 ⑥ 職員給与と費対医療収益比率は、類似病院平均値より低くなっており、効率的な病院運営が実施できています。
 ⑦ 材料費対医療収益比率は、当院は院内処方を実施しているため、類似病院平均値より高い値となっています。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は類似病院平均値より低く、施設・設備の最適化に取り組んでいます。
 ② 器械備品減価償却率は、類似病院平均値を大きく下回り、施設・整備の最適化に取り組んでいます。
 ③ 1床当たり有形固定資産は、平成27年度に完了した第4次整備事業の影響により、類似病院平均値を上回っています。

全体総括

令和3年度は入院・外来患者数とも前年度比で微増となりましたが、まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、経常収支比率を100%以上維持することができず、赤字となりました。また高齢化や少子化による市内人口の減少や常勤医師不足による診療体制の確保が困難な状況で、経営状況は一層厳しくなっていくものと考えられます。病院経営を安定的に行うため、高い病床利用率を維持するとともに、病診・病連携などによる新規患者獲得や経費削減に取り組み、経営の健全化に努めていきます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。